2024 年 3 月 25 日　神戸市企画調整局調整課

神戸市海洋産業振興に関する有識者会議　提言骨子

整理すべきこと

(1) 海洋産業の定義

海洋産業のすそ野は広く捉えて、その中から神戸らしい組み合わせを選ぶと良い

(2) 神戸の強みの再確認

強みは「立地的特性」と「港町としての歴史（産業＆学術)」

- 立地的特性

  ウォーターフロントや山から海への景観があること

  市民にとっての神戸の魅力に「海」があること

  おしゃれなイメージ

- 産業

  既存の海洋産業（港湾、造船、土木、水産、海洋調査、観光、真珠など）があること

  新しい海洋産業（水素、CNP）があること

- 学術

  海洋に強い神戸大学があること

  優秀な技術者を排出する神戸高専があること

  市内に 23 の大学と研究機関等が集積していること

- 産官学の連携基盤

  海洋の科学技術に関する産官学が集う「Techno-Ocean」の開催地であること

  「大学都市神戸 産官学プラットフォーム」を全国に先駆けて設立したこと

(3) 既存の海洋産業

- 神戸の強みのひとつである「既存の海洋産業」が、歴史を活かしながら時代に応じて柔軟に、持続的に変化することの意義を再確認すべき
- 神戸市は、既存の海洋産業がサステナブルに成長することを支援することで、雇用の継続・拡大や新たな雇用の創出、若者の定住といった成果が期待される

【課題】

- ✓ クローズな世界、横のつながり希薄
- ✓ DX や IT 化が遅れている
- ✓ 人材不足が深刻
- ✓ 脱炭素・環境負荷の低減がマスト（グローバルな動き）
- ✓ 従来手法「プロダクト販売」での事業利益獲得が困難　特にものづくり

  その主な理由：日本経済の鈍化、商品ライフサイクルの短縮、価格競争の助長、モジュール化による参入ハードルの低下

【求められていること】

- ✓ 環境に配慮した事業展開
- ✓ 価値創造のイノベーション：新技術の開発・発展（無人化・省力化・脱炭素など）
- ✓ 価値獲得のイノベーション：「プロダクト販売」以外にも多様な収益源を認識し検討

✓ 取るべき手段の例：異分野・若者の参入促進、業界標準をリードする・サービスで儲ける

【価値創造のイノベーションに伴う事象】

新技術の発展に伴い、仕事の高度化・複雑化が進む

取るべき手段の例：多様な働き方の推進、リスキリング・リカレント

(4) 目標設定

ロードマップのゴールの明確化

理念と中長期戦略に向けた政策オプション

(1) 理念の設定

行政である神戸市は、海洋は私たちが生きるための最低限の基盤であり、社会、経済はその上に成り立つ、ということを理念としてもっておくべき

(2) 中長期戦略に向けた政策オプション

【目標】海洋に関連する多様なビジネスが集まっていること

【市の果たすべき役割】「つなぐ」「場を提供する」「情報と学びの提供」

【政策オプション】

- 神戸らしい新しいかたちの海洋産業を具現化する

  神戸のイメージと関連するものを組み合わせ打ち出す

  例）真珠×デジタル技術、港湾の高付加価値化

  防災・ファッション・食・観光・AR や VR などのデジタル技術も神戸らしいテーマ

  資金調達として ESG 投資やインパクト投資の事例も参考とする

- 価値創造・価値獲得を目指してプラットフォームを形成する
- 実証や研究の場所を提供する

  ①KOBE マリンネットワーク

  ②産官学の連携強化

  神戸大学を中心に据える、大学都市神戸 産官学プラットフォームの活用

  ③コーディネーターの設置

  ④海プロジェクト（実証場所の提供とビジネス化に向けた伴走）

  ⑤若者の参入促進とビジネス化への支援

  スタートアップ支援チームとの連携

  若者と産業界が出会う場の創出　　例）神戸高専発ベンチャー企業×港湾局

  ⑥専門人材の育成・新たな分野への参入促進　例）リスキリング・リカレント、副業

- 普及啓発を効果的かつ継続的に展開する

  理念に基づく継続的かつ効果的な普及啓発をもって、市民に行動変容を促す

  ①神戸港の親水エリアの活用　例）環境学習、公開型環境調査

  ②ファミリー層向け体験型イベントの継続・拡充

  ③産官学連携による次世代人材育成の継続